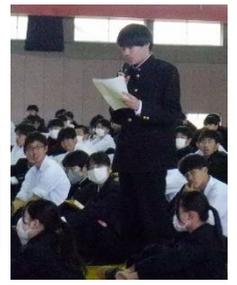


令和6年度 第1学年 総合的な探究の時間 (漆工芸)

令和6年5月21日(火)7校時、1学年総合的な探究の時間において、本校第1体育館にて1学年を対象とした出前授業が行われました。

SDGsに関する探究活動を始めたばかりの生徒たちが活動のイメージを広げていくことをねらいとし、株式会社 松沢漆工房 代表取締役社長 松沢 卓生 様を講師にお招きし、SDGsの観点からみた漆工芸の魅力について講義をいただきました。

約45分の短い時間のなかに、盛りだくさんに込められた漆工芸の情報から、SDGsの認識に新たな気づきを得た生徒たちでした。



漆とSDGs

漆とSDGs

9.4



8.9
2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。



2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。



世界に広がる"KINTSUGI"??

漆とSDGs

11.4 11.6 11.a



世界の文化遺産および自然遺産の保全・開発制限取り組みを強化する。

2030年までに、大気、水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。

各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。

漆とSDGs

12.2 12.4 12.5 12.8



2030年までに天然資源の持続可能な管理および効率的な利用を達成する。

2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じて化学物質やすべての廃棄物の環境に配慮した管理を達成し、大気、水、土壌への排出を大幅に削減することにより、ヒトの健康や環境への悪影響を最小限に留める。

2030年までに、予防、削減、リサイクル、および再利用（リユース）により廃棄物の排出量を大幅に削減する。

2030年までに、あらゆる場所の人々が持続可能な開発および自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようす

漆塗り万年筆の製作と販売



漆とSDGs

13.2 13.3



気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。

気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

漆とSDGs

14.1 14.3



2025年までに、陸上活動による海洋堆積物や富栄養化をはじめ、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に減少させる。

あらゆるレベルでの科学的協力の促進などを通じて、海洋酸性化の影響に対処し最小限化する。

日本各地に漆産地があった



漆とSDGs

15.1 15.2 15.4 15.5



2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地、および乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系およびそれらのサービスの保全、回復、および持続可能な利用を確保する。

2020年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な管理の実施を促進し、森林破壊を防止し、劣化した森林を回復し、世界全体で植林と森林再生を大幅に増加させる。

2030年までに生物多様性を含む山地生態系の保全を確保し、持続可能な開発にとって不可欠な便益をもたらす能力を強化する。

自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を防止し、2020年までに絶滅危惧種を保護および絶滅防止するための緊急かつ重要な対策を講じる。

